

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和6年度第2回朝霞第三中学校学校運営協議会	
開催日時	令和6年6月18日（火） 午前10時から午前11時40分まで	
開催場所	朝霞第三中学校 図書室	
出席者及び欠席者の職・氏名	・白鳥 成章 ・關野 武男 ・本多 武 ・渡辺 聡 ・正野 寛樹 ・中村 菜々子 ・野口 邦彦 （事務局）司会：犬木 勝 記録：稲泉 功 （欠席）・金子 雅美・狩野 浩二	
議題	（1）部活動の在り方について （2）その他	
会議資料	（1）第2回学校運営協議会次第 （2）「働き改革」と「部活動改革」について	
会議録の作成方針	☒ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☐ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☐ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 司会・記録 による確認	
傍聴者の数	0人	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

委員長・評議員から運営協議会委員になり、地域に活動がわかる形で発信していきたい。
・運営協議会が中心になり、どう発信していくか。

2 学校長あいさつ

校長・6月20日より学校総合体育大会が始まる。
・朝霞三中生徒の素晴らしさについて。
・全体の一体感を大切にしつつ、個別の悩みを抱える子にどう対応していくかが重要。
・教員の働き方改革について、部活動改革が進まないなか、三中として何ができるかを考えたい。
・教員こども両方が幸せになるように。

3 協議内容

（1）部活動の在り方について

校長：来年度に向けて様々な改革も実施していくため、熟議をもとに学校でも進めていきたい。
・働き方改革、ブラックと言われる教員の働き方をどうにかしたい
・県が出している基本方針、目標は時間外在校等時間月45時間以内100%にすることだが現状は程遠い。
・朝霞三中の勤務状況、日課、現状について
 一般的な教員のケースで普通であっても1日2時間30分は残業。20日間で50時間。4月の時間外在校等時間について80時間超が土日含めると複数名いる。）
・国や県の動向について
 地域に移行していく。地域連携を行う。部活の学校の中での位置づけは、教育課程外。しかし有意義な教育活動の一環という扱い。基本的に全員に何らかの部の顧問になっている。次期学習指導要領から部活動が外されたとき、どうするか。部活の持ち手がいなくなり、持続不可能になる。
・保護者や地域の理解を得ないと改革は難しい。
・現状について質問はあるか。

委員E：勤務状況について質問。複数顧問を敷いているが両方参加か、片方か。

校長：一方は事務中心など必ずし部活動の技能指導にかかわっていない場合もあるし。交代で実施している場合もある。

委員E：部活の活動日数については、どうなっているか。

校長：平日は、週1日は休みで土日は、どちらか休むのが基本である。
 体育館のローテーションなどあり、学校として統一の休養日は設けていない。

委員E：活動日数を減らしてはどうか。土日は行わないという選択もあるのでは。

校長：「なぜやらないのか」というご意見もいただくこともあり、保護者の中でも意見が異なったり、これまでのながれもあったりする。

委員E：外部委託の前に実施日数を減らせばよいのではないか。

校 長：提案①定期テストについて減らすことができないか。

全てをなくすことは難しいが中間テストをなくすことはできないか。これまでのテスト期間内のト作成、採点の時間を減らし、授業準備研究の時間に変える。期末テストのみにするのはどうか。出題範囲が長くなることでの、生徒の負担感や評価回数の減少といった意見はあるかもしれないが、定期テストのみで評価せず、A I ドリル等を活用しながら評価を行う。

委員D：親の実感としては、子供は定期テストがあると勉強を頑張る。テストがないと意欲が高まらない心配がある。フォローアップが必要。中間テスト以外でどうモチベーションを高めるか。なくしてやってる学校もあるのでなくしてみ、状況によりまた戻してもよいのでは、という考え方もあるが少し心配。

委員A：小テスト、A I ドリルもあるので逆に日頃やらなければという考え方になる可能性もある。

委員E：麹町中の例もあるが、定期テストを廃止した学校について、その学校の生徒の学力について統計はあるか。中間テストを廃止しても学力について問題ないという資料があれば検討しやすい。

校 長：県学調等で大きく落ちたということがあれば、検討しなければならない。本来は各教科の楽しさを教えながら学ぶことが大切であり授業改善は必要である。

委員B：目的があるから勉強するだけではない。以前と違い、タブレットなども活用して小テストが頻繁にできる環境である。定期テストに費やしていた時間を授業の時間に費やすことができる点がメリットである。

委員A：導入校の事例を見比べたい。三中で廃止した結果をもとにした議論も必要。

委員D：導入校では先生のためになったのか。よくなるであろうという推測だけでなく、事例に関する研究も必要ではないか。

委員E：中間テストをなくした方が、生徒の学力が伸びるという話か、教員の負担軽減するためか、どちらを重視した話か。

校 長：働き方改革の目的は、子供たちのためというのが前提である。教員の働き方を変えることで子供たちと向き合う時間が増え、還元できる。

委員F：期末だけになるとそれがラストチャンスになってしまうのが心配である。評価方法が増えたことをアピールすれば保護者はほっとするのではないか。丁寧に説明をすれば納得を得られると思う。

委員E：廃止した方が、学力が伸びる証拠資料が必要ではないか。

校 長：中間をなくしたことで学力を維持した根拠資料は、その学校の背景や子供も異なるので難しい面がある。市内では朝霞四中で1学期の中間試験を廃止している。

主 幹：四中では目的は子どもへの負担感を減らすために、実施した。普段の小テスト等でも見ている。学校からはシラバスも出しており、これまでも中間期末だけ見ているわけではない。知識だけではなく普段の授業で「学びに向かう力」も学力として重視している。学習習慣を身に付けていくことも重要である。

委員B：伸びた指針は、共通のテスト以外で見れるものはあるのか。

校 長：結果を調べる材料としては県学調、南部校長会テスト等か。
働き改革の主旨は、あくまでも子どものためである、

委員C：細かく見ていくことによって逆に先生の仕事量が増える可能性もあるのでないか。保護者に説明するときは、子どものためにという目的を説明しな

いと納得感はないのではないかと。やるならAIドリルが導入された今である。地域差もある。やってみて負担が増えるようなら戻してみればよいのではないかと。朝霞は都市部、校外双方の特性がある。部活は減らすことを提案していけばよい。

校 長：提案②学校として部活動は平日のみ行う。

土日の部活動を行わない。クラブチームなどとして外部移行する。例えば、特定の指導者に教わるという形ばかりではなく、部活動を生徒自身に運営させて、そこに大人が寄り添う。保険の問題など条件整備は必要になるが、今後教員が土日も関わることを前提に部活を運営していくのは、限界がくる。

委員A：競技特性による部分もある。試合などどうするかなど。自主練に保護者や外部指導者が協力するという方向はどうか。

委員C：かつての部活動は顧問が来ない時間も多かった。先輩とやっていた。

委員A：現在は監督責任を求められるので顧問の見守りが必要なのではないか。

委員E：事故の際、顧問の不注意を責める判例が多いので、自主的な活動は難しいのではないかと。活動には大人が立ち会うべきである。先生が完璧にみることは不可能だと思うので、やはり部活は縮小するべきである。

委員F：部活をやっている子供にとってもブラックではないかと。部活を減らして勉強の時間にあてるのもよいと思う。顧問が頑張っている姿を保護者に理解してもらうべきである。

委員E：部活で活動が足りないなら外部のクラブチームに行くべき。

学校の先生にその部分を負わせるのは難しい。

委員A：外部クラブチームに参加している子と学校の部活動との間で問題もある。高校は本格的にやるので、中学校はそのとっかかりができればよいのではないかと。

委員E：埼玉県立高校の入試において、今後調査書に部活動の記載がなくなると聞いている。

校 長：部活動の在り方については、令和8年度を目途に、教員、保護者を交えて協議をしていきたい。その部分を運営協議会でも議論していきたい。

校 長：議案③鳴子について学校から切り離し、地域移行していけるとよい。

学校内でも縮小の方向である。三中OBも入れて学校主体ではない参加団体として参加できるとよい。

委員E：今は先生が募集して部活のような形で運営しているのか。

校 長：その形である。朝霞市内では学校から、地域、保護者主体になっている中学校、小学校が増えている。持続可能な形にするために地域移行が必要である。

委員A：コロナ前は部活の朝練習の時間に実施していた。PTAも全面的にサポートしていた。今年度は保護者の協力を求めたところ参加者は少なかった。移行はありである。

委員E：移行するべきである。

校 長：やりたい子はいる。その気持ちは生かしたい。

委員A：OB、OGの力を活用するのも一つの手段である。

校 長：中間、鳴子移行は次年度より部活動については、検討委員会のようなものを始動したい。その方向性でよいか。

委員E：中間テストの変更も大きな問題である。基準が変わってくるので教員によって

ばらつきが出てくるのではないか。教員間での共通理解が重要である。

委員 B：本来の教育活動としての位置づけが必要。負担削減だけではなく議論が必要。

学校主体で発信することが難しい案件については学校運営協議会の発信にしてはどうか。学校運営協議会の意味がある。

4 連絡

(1) 次回学校運営協議会 日程について

9月17日(火) 10時～11時30分を予定。

5 閉会